－所蔵作品紹介－

大門　巖　DAIMON Takeshi

ふわふわ

作品データはこちら

大門巖は、北海道秩父別町（空知管内）の生まれで、道立旭川職業訓練校で木工を学び、家具関係の会社に長く勤めた後、1988年に独立した。1973年技能オリンピック全国大会で一位となり、西ドイツでの世界大会では三位となった。また、道立旭川美術館の「はこで考える―あそびの木箱1992-93」展で受賞するなど、全国のクラフト展や企画展で高い評価を得ている。現在は旭川市に住み、東川町（上川管内）にアートクラフト・バウ工房を構えている。

座布団の柔らかさを彫りによって巧みに表現したこの作品について、ほとんど解説は不要だろう。道立旭川美術館の「木の椅子は語る展」（1984）に出品されたもので、人を驚かせ、楽しませるアイデアと技術は一流である。また、赤い正方形のラインには自然の木の色を生かした象嵌（異なる色の材をはめこんで模様にする）の技法が使われている。遊び心と技術が一体化して率直で明快な面白さが生まれている。

「北海道立旭川美術館コレクション選集1982-1997」（1998年３月発行）より